

## 8 酒匂川総合土砂管理プランの推進に向けた仕組み

### (1) 酒匂川水系土砂管理検討委員会

酒匂川総合土砂管理プランを推進するために、学識経験者、関係行政機関等で構成する「酒匂川水系土砂管理検討委員会」において、山から海までの流砂系一貫とした土砂管理のあり方や連続した土砂の流れの回復に向けた対応策について検討を行う。

### (2) 酒匂川・鮎沢川総合土砂管理推進連絡会議

流域が一体となって総合的な土砂管理に取り組むため、静岡県域も含めた河川、森林、砂防、ダム、堰、海岸の各管理者及び流域の関係地方公共団体等で構成する「酒匂川・鮎沢川総合土砂管理推進連絡会議」において、酒匂川流砂系の土砂環境に係る状況や流域内で実施する対応策について情報共有等を図る。

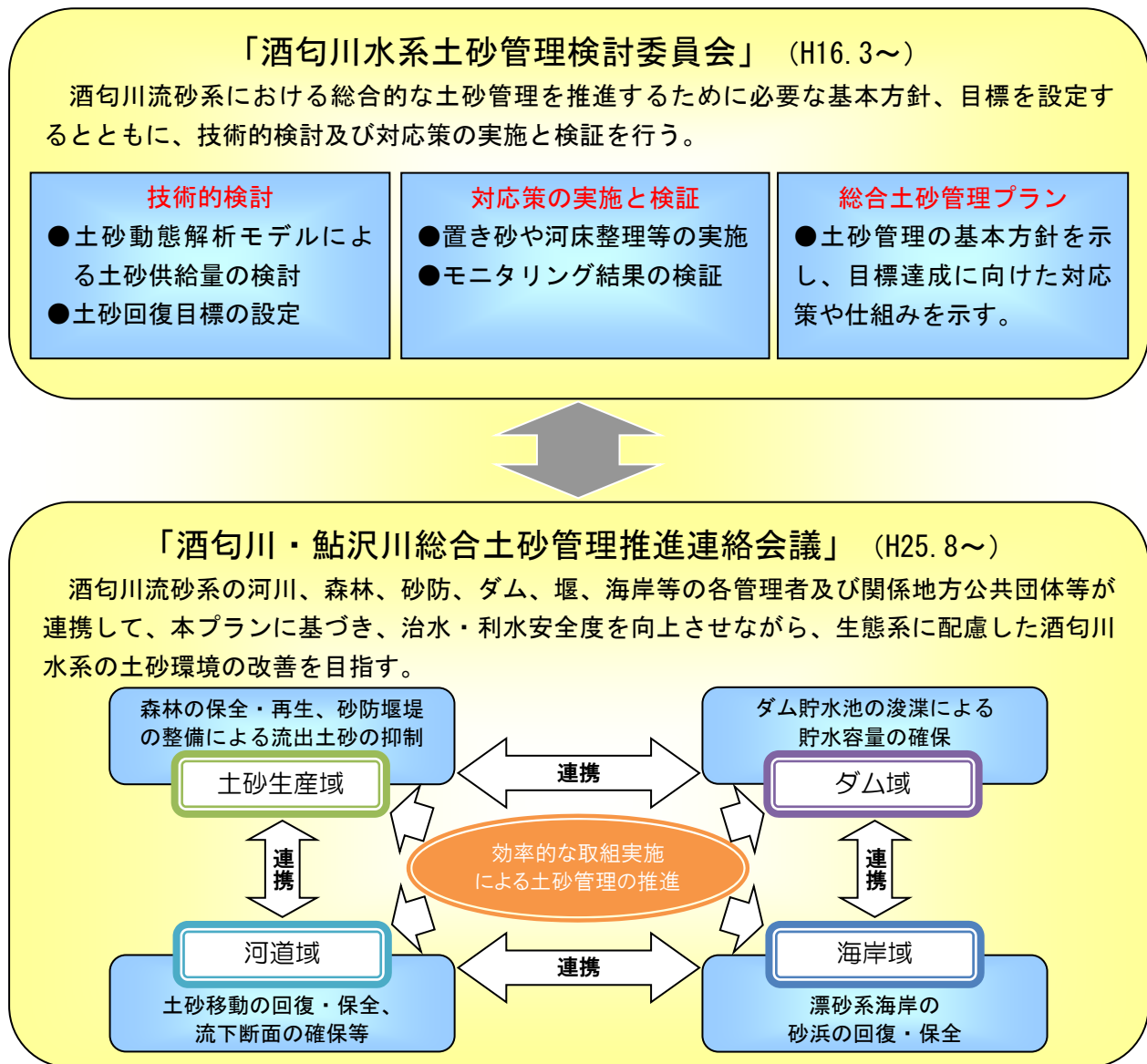


図14 酒匂川総合土砂管理プランの推進に向けた検討体制

### (3) 対応策の実施

各対応策の実施については、各管理者がそれぞれの計画等に基づき進めていくこととなるが、流砂系全体での取組みが不可欠であることから、関係機関と連携を図りながら進めていく。

また、実施していく対応策については、目標に対する効果をモニタリングにより確認しながら、量や質の順応的管理のもと、計画（Plan）、実施（Do）、点検（Check）、再検討（Action）を行い、必要に応じて内容を見直すこととする。

さらに、豪雨等による突発的な課題の発生時においても、関係機関との連携のもと円滑な情報共有を図り、状況に応じて適切に対応していく。

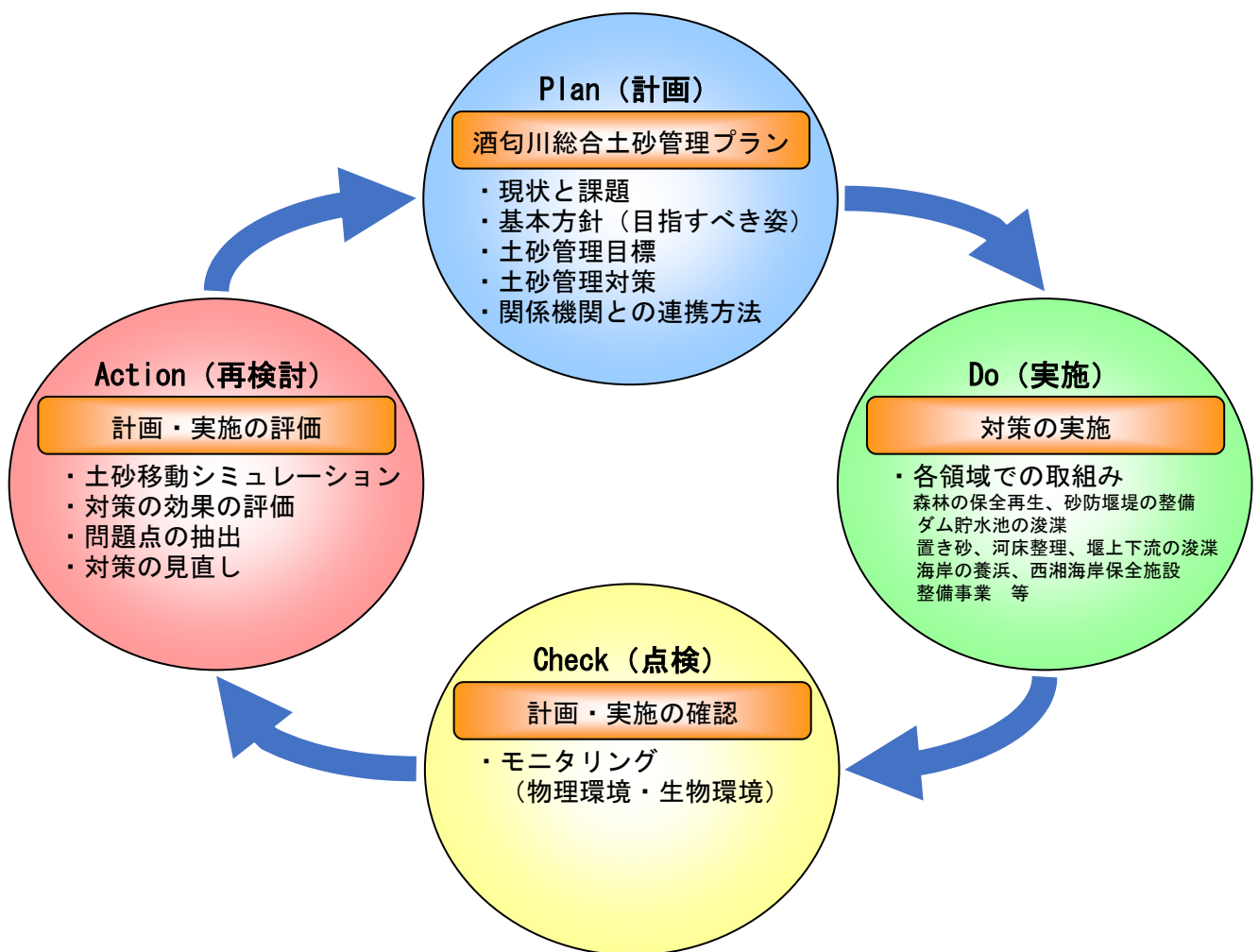


図 15 対応策の実施（PDCAサイクル）

#### (4) モニタリング方針

総合的な土砂管理を進めるにあたっては、対策による土砂動態の応答を、酒匂川流砂系及び各エリアで観察するとともに、土砂動態に関する調査・検討を継続し、得られた知見に応じて、総合的な土砂管理の目標の達成に向けた段階的な対応策を実施する中で、計画の点検及び再検討を行い、適宜見直していくことが重要である。

このため、モニタリングにおいて、支川からの粒径ごとの供給土砂量を正確に把握し、流砂系全体の土砂収支、総合的な土砂管理に係る各対応策の精度向上を図るため、流量観測、河床材料調査、河床高調査、生物調査等を定期的実施する。

なお、土砂の移動によって物理環境が変化し、それに伴い生物環境が変化する可能性があることから、各エリアにおける代表的生物の生息状況を確認するため、指標を設定し、モニタリングを実施していくとともに関係機関が別途実施している調査結果も有効に活用していくものとする。

また、下流河道域では、洪水時に土砂堆積等が生じており、流下能力確保や堤防の安全確保の観点から、洪水時の流況、土砂移動状況を把握することが重要である。このため、洪水時の流況、土砂移動状況を把握し、効果的・効率的な土砂管理・河道管理を実現する観点から、水位・流量観測と河床変化量、河床材料に関する調査を実施し、流量規模や洪水波形の違いによる土砂移動の状況の解明に努める。

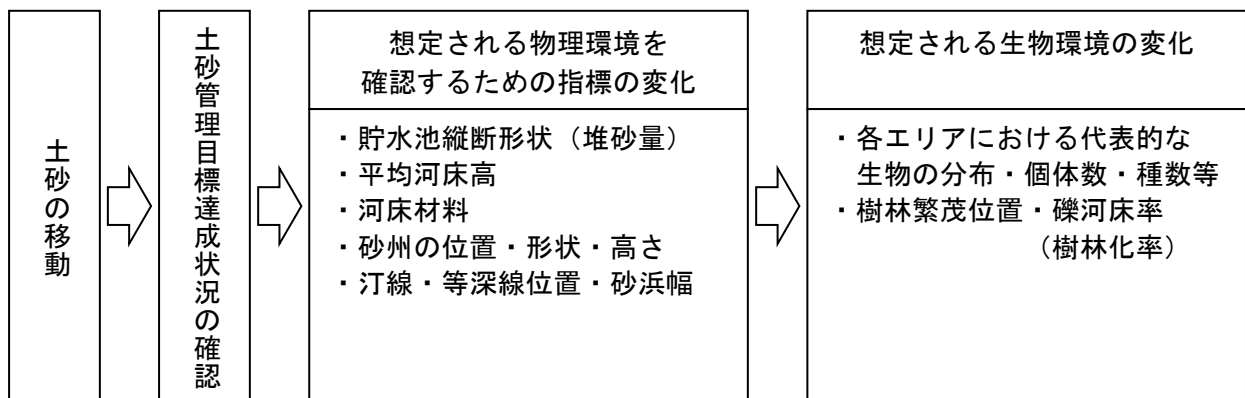


図16 土砂管理目標の達成状況を確認するための指標

#### (5) 地域との連携

土砂の流れの健全化を図るためには山・川・海の連続性を捉えた取組みが必要であり、県民参画と情報公開の場を積極的に設け、地域と一体となった総合的な土砂管理の実現を目指していく。



参考図 酒匂川水系の橋梁及び堰など位置図